



みやもと ひさし
宮本 寿さん
(昭和13年生まれ・77歳)



たきかわけんた
瀧川健太さん
(香川高専期間キャンパス5年)

コーディネーターより

古くから水の神様として崇められ、延喜式神名帳に讃岐国二の宮と記載されている三豊市高瀬町にある「大水上神社」。鎮守の森に囲まれた境内には、「残したい香川の水環境50選」にも選ばれた宮川が流れています。ここで生まれ育ち、子供の頃から宮司になることが当たり前だったという宮本寿さん。境内にある「うなぎ淵」では雨乞い神事が行われ、ウナギやカニなどにまつわる伝説が残っていること。子供の頃は名前の通り、ウナギが捕れていたことなどを話してくれました。現在は「大水上の森を守る会」が発足。地域で神社の森や川が守られています。そこに暮らす人たちが自分の暮らす地域に関心を持つことが森や川を守る一歩だと教えてくれました。

境内に水にまつわる伝説があるといいました。

「うなぎ淵」ですね。「うなぎ淵」の上に大きな岩がある。それが本宮です。雨乞い神事をしていた場所なんです。黒いウナギが出ると雨が降る。白いウナギが出ると雨が降らない。カニが出ると風が吹くと言われてます。私が子供の時にはウナギがいましたよ。今は農薬などが原因で捕れなくなっただけだね。宮川でフナとかゴリも捕れていました。

水の神様を大事にされてきたのは、香川県が雨が少ないからでしょうか？
そうだと思いますね。

鳥居をくぐって神社に一步入った時、すごく雰囲気のある場所だと感じました。この雰囲気を守る上で大事にされていることはありますか？
宮川の源流の森を守る会があるんです。その方たちが山や川の掃除をしたりしてくれています。地域の人々も一緒に参加して。これが伝統なんです。

今の若者はあまり外に出ないと言われます。
今はパソコンとかいろいろある。だから、自然に触れる機会が少ないかもしれないですね。外で遊ぶことで、自然の良さを知ることができるだけだね。自然の脅威とか楽しさとか。美しさを見極めるというかな、そういうことを感じられるのは楽しいことなんやけどな。

僕ら若い世代に伝えたいことは何かありますか？
今の若い人たちは、ぜひ自分の暮ら

一人で生きていくんじゃないことを知るべき。

大水上神社の守り人 宮本 寿さん(三豊市)



自分の身近な自然、
地域を守ることに
つながって。



1 大水上の森。この森があるから、宮川の流れがある 2 「うなぎ淵」の上にある大きな夫婦岩が神様が降りて来られた場所、本宮 3 「うなぎ淵」。黒いウナギがでると雨。白いウナギがでると雨が降らない。カニが出ると風が吹くという伝説が残っている 4 「延喜式神名帳」に讃岐国二の宮と記載されている「大水上神社」 5 大きな夫婦石を子授けの神として祀った「産霊神(むすびのかみ)」。いにしへの自然を崇める心が今も受け継がれている

宮本さんから受け取った言葉

代々宮司をされているんですか？
そうです。父が亡くなった後、母が後を継ぎ宮司をしていました。だから、小さい時から宮司になると。そういう思いでした。私は昭和45年から宮司をしています。

いつ頃から神社はあったのですか？
神様という観念が生まれたのが弥生時代。それからだから、弥生末期かな。銅鐸や銅剣が出てくるんですよ、近くから。その頃から社があったと思うよ。

川が流れていたので、ここに神社がつくられたのでしょうか？
川があったからこそ、お宮ができたのだと思います。水は人間にとって一番大事なことだと思うんですよ。私たちの体は水分がほとんど。昔の人は源ついでに水を非常に大事にしてきた。水の源としてここを崇めたってことかな。

している地域を大切にすることを忘れないでほしいですね。自分が一人ではないということをもう少し知るべきではないかな。地域を大切にすることを知らないと、地域のことを知らないと、人とつながるうとか、神社をもっと知ろうということにつながりますね。大げさなことを言おうとは思わないけど、そういうことが大事なんじゃないかな。

例えば、宮川や「うなぎ淵」を清掃すると、昔では考えられなかった家庭ゴミ(生活用品や電化製品など)が流れている。昔はね、川に肥え杓を浸けるとささしなかつた。一人ひとりが少しそういうことに気を付けていけば、自分の身近な自然、地域を守ることにつながるんです。代々守っていくことの大切さみたいなものも伝えていかなければいけないと思います。

参加者の感想



宮本さんのお話を通して、地域とのかかわりが昔に比べ希薄になっているのだと知ることができました。地域とのつながりが薄くなっていくことで、伝統が失われたり自然が汚されたりしてしまう。神社は一人では守れないからこそ、宮本さんは人とのつながり、自然とのつながり、地域とのつながりを大切にされています。私たち世代は、そういった地域の現状に気づくことからはじめる必要があると感じました。